

平成 28 年度 第 1・2・3 回 合同番組審議会 議事録

1 開催年月日

平成 28 年 9 月 6 日 (火) 午後 1 時 30 分～午後 3 時ごろ

2 開催場所

砺波市太郎丸 2-129 北日本新聞社砺波支社 会議室

3 委員の出席

委員総数 5 名

出席委員数 5 名

出席委員の氏名 (◎委員長)

- ◎ 飯田 敏雄 (87 歳、男、前砺波市文化協会会長)
- 西森 昭治 (43 歳、男、砺波商工会議所青年部直前会長)
- 小幡 豊 (67 歳、男、砺波市文化会館館長)
- 河合 要子 (50 歳、女、KO・RA・RE 代表)
- 石村 修子 (37 歳、女、千華園勤務、グリーンアドバイザー)

放送事業者側出席者名

- 河合 常晴 (株式会社エフエムとなみ 代表取締役社長)
- 古井 裕人 (株式会社エフエムとなみ 業務部長)
- 高信 静枝 (株式会社エフエムとなみ)

4 協議事項

1. 放送番組に対する評価

《対象番組》

- ・HAPPY SHOWER
- ・本との出会い
- ・県総合防災訓練特別番組「備えよう。明日のために」

2. アドバイス

3. その他

社名	株式会社エフエムとなみ
----	-------------

5 議事の概要

社長、委員長の挨拶に続き、協議へ。3つの番組に対しての感想やご意見をいただいた。

また、その後は、災害対応などについて意見交換を行った。

また、災害時にFMとなみをより多くの市民に聴いていただくための多面的な意見がでた。

6 審議内容（各委員の発言を要約して箇条書きで記載）

【小幡副委員長】

・「HAPPY SHOWER」について

砺波図書館から図書を紹介があったが、曜日時間を決めて紹介しているので固定ファンがつきやすいのではないかと。

・「本との出会い」について

朗読番組は「ながら作業」でも聴けるのでいい。

終戦の日に合わせた戦争という固いテーマもよかった。

・「備えよう。明日のために」

ラジオの強みは防災ではないかと。

臨時災害放送局の手続きに複雑さを感じた。

他地域にはないラジオとケーブルテレビとの繋がりを生かした仕組みづくりを考えてほしい。

地域特派員のような協力者作りも大切ではないかと。

【河合委員】

・「HAPPY SHOWER」について

ゲストの砺波図書館谷口さんの聞き取りやすい語り口がよかった。

季節に合った内容で構成されてさわやかだった。

パーソナリティーにはゲストの話が聴きやすくなるサポートもしてほしい。

・「本との出会い」について

お盆にふさわしい内容で、当時を考える機会になってよかった。

BGMも内容に合っていてよかった。

・「備えよう。明日のために」

災害時の訓練ができたのはよかった。

災害時エフエムとなみを聴けば情報を得られることが実感でき安心した。

ラジオマイクもクリアな音声でよかった。どんなものか見てみたかった。

多くの人に知ってもらうために、抜粋した内容を別番組で放送してはどうか。

ツイッターやフェイスブック等、災害時に情報を受け取るルートを考えてほしい。

社名	株式会社エフエムとなみ
----	-------------

【西森委員】

- ・「HAPPY SHOWER」について
平日昼の番組ということで、柔らかいタッチで聴きやすかった
身近な行政の話題を定期的に伝えることで、聴いてみようと思ってもらえるのではないかな。
- ・「本との出会い」について
松村さんの朗読が聴き取りやすかった
- ・「備えよう。明日のために」
長時間、大きな挑戦だったのではないかな。課題を生かしより良い方向へ進んでほしい。
災害時の市と放送局の関係など、分かりやすく説明されていてよかった。

【石村委員】

- ・「HAPPY SHOWER」について
普段本を読む時間がとれないが、1冊の本を詳しく紹介されていてまるで本を読んだかのような気分になれた。
テンポもよく聴きやすかった。
- ・「本との出会い」について
富山で起こったことを伝えられるのはコミュニティエフエムならではないかな。
改めて戦争を身近に考える機会になった。
- ・「備えよう。明日のために」
災害時に現場に行けない場合の情報入手方法を考えてほしい。

【飯田委員長】

- ・「本との出会い」について
松村さんの朗読が上手い。
戦争を語り継ぐということはどういうことか、難しいテーマである。戦争を知らない世代がどう戦争を語り継ぐことができるのか、考えてほしい。
- ・「備えよう。明日のために」について
訓練は回数を重ねることで上手になる。
私たちの近くにも危険な場所は多くあるのではないかな。それを知った上での訓練、実際に則した放送にしてほしい。

【河合社長】

- ・臨時災害放送局の概要と、砺波市との折衝状況を説明。
割り込み放送の仕組みを確立し、市民への意識づけをしていきたい。となみ野エリアへの意識はしっかりもっている。災害時の生活支援情報提供を確立させる方策を今後も検討していきたい。
- ・災害時のコミュニティーラジオの必要性は言うまでもなく、第一報はNHKだが、その後の生活支援情報はエフエムとなみを聴いてもらえるような意識づけを市民にしていきたい。そのた

社名	株式会社エフエムとなみ
----	-------------

めの方策を検討していきたい。

【飯田委員長】

・「災害時には FM となみ」となるよう取組みを進めてほしい。

- 7 審議機関の答申又は意見の概要を公表した場合におけるその公表の内容、方法及び年月日
平成 28 年 9 月 7 日付北日本新聞朝刊に記事を掲載した。FM となみの HP 上でも公開。

以上

社名	株式会社エフエムとなみ
----	-------------